

▶ ヴォイッジバブル (VOYAGE BUBBLE、漢字表記：遨遊氣泡) = 香港

せん6歳・鹿毛 (オーストラリア産・2018年11月3日生まれ)

父 : Deep Field = 母 : Raheights (母の父 : Rahy)

馬主 : サンシャインアンドムーンライト・シンジケート

調教師 : プーンファイ・イウ

騎手 : ザカリー・パートン

戦績 : 全18戦6勝、2着5回、3着3回

総獲得賞金 : 約8億3,840万円

主な戦績 : '24 スチュワーズカップ (G1) 1着

'23 香港ダービー (L) 1着

'23 香港クラシックマイル (L) 1着

'24 香港ゴールドカップ (G1) 2着

'23 香港マイル (G1) 2着

'24 チャンピオンズマイル (G1) 3着

ヴォイッジバブルはオーストラリアで生まれ、2020年のイングリシ・クラシック・イヤリング・セールにおいて38万豪ドル(当時約2,800万円)でプーンファイ・イウ調教師に購入され、サンシャインアンドムーンライト・シンジケートの所有馬となりました。

ノーザンダンサー系の父ディープフィールド(その父ノーザンミーティア)は現役時にオーストラリアにおいて1,100~1,200mでG2勝ちを含む5勝。主な産駒に本馬や2021年香港スプリント優勝のスカイフィールド、2023年キングスプレート(南アフリカ)勝ちのアルムサナがいます。オーストラリア産の母ラハイツ(その父ラーイ)は現役時に1,400~1,900mで4勝。ヴォイッジバブルの半兄にオーストラリアでP.J. ベルステークス(G3、芝1,200m)を勝ったディダムス(父スニツェル)、マイルのリステッド競走で2着のブレタン(父コマンズ)がいるほか、母系からはアメリカのG1ファーストレディステークスなどを勝ってソヴリン賞年度代表馬に輝いたネバーリリートや、エイコーンステークス2着のダンジグズビューティーなどが出ています。

ヴォイッジバブルはイウ厩舎の所属馬として3歳シーズンの2022年1月にデビューし、以降、香港では全てシャティン競馬場の芝のレースに使われています。初勝利は2戦目のクラス4ハンデ戦(1,200m)で、2番手から脚を伸ばして3馬身差で快勝。6月のクラス3ハンデ戦(1,400m)も同様に好位から抜け出して、5戦2勝、2着2回でシーズンを締めくくりました。

4歳の2022/23年シーズンは最初の2戦を3、2着とした後、1月のクラス3ハンデ戦(1,600m)は後の重賞馬ハッピートゥギャザー(2着)、ラシティブランシュ(3着)を従えて逃げ切り勝ちを収め、香港4歳シリーズに駒を進めます。初戦の香港クラシックマイル(リステッド、1,600m)は4番人気でしたが、オーストラリアの女性騎手、J. カーを鞍上に迎えて先頭に立ってレースを進めると、直線でもセーフティリードを保ったまま1馬身1/4差で逃げ切り勝ち。続く香港クラシックマイル(リステッド、1,800m)はソードポイント(2着)と併走する形でレースを引っ張りましたが、徐々に後退して6着でレースを終えました。

3月の香港ダービー(リステッド、2,000m)は距離を伸ばした前走の敗戦もあってか人気を落としましたが、大外枠からスタートすると初コンビのA. バデル騎手は、序盤は最後方での待機を選択。先頭が最初の800mを52秒09で通過すると、向こう正面半ばで進出を開始し、先行勢を射程にとらえて直線へ。最後は4頭横並びの激戦を短アタマ差だけ抜け出して優勝し、4歳クラシックシリーズ二冠を達成しました。次いで、一線級の古馬との初対戦となったチャンピオンズマイル(G1、1,600m)は3番手追走から3コーナーを過ぎて一旦は先頭に立ちましたが、ゴールデンシックスティにかわされてから徐々に後退して3馬身半差の4着まで。7戦3勝、2着1回、3着1回の成績でシーズンの幕を下ろしました。

現在の 2023/24 年シーズンはジョッキークラブマイル (G2、1,600m) 3 着で始動すると、J. マクドナルド騎手と臨んだ香港マイル (G1、1,600m) は 9 番人気と低評価でしたが、先に抜け出したゴールデンシックスティには置いて行かれたものの、5 番手からしぶとく伸びてナミュールらの追撃を封じ 2 着に健闘しました。年が明けて 1 月のスチュワーズカップ (G1、1,600m) はゴールデンシックスティ不在のなか 1 番人気に推され、コンビ継続となったマクドナルド騎手を鞍上に 3 番手を進むと残り 300m で先頭に。並び掛けてきたビューティーエターナルの抵抗を振り払い、最後は 1 馬身 1/4 差をつけて初の G1 タイトルを手中にしました。

この後、イウ調教師はドバイ遠征を見据えつつ、香港ゴールドカップ (G1、2,000m) に愛馬を送り込みます。ここは約 2 年ぶりに Z. パートン騎手を鞍上に迎え、断然の支持を集めるロマンチックウォリアーに次ぐ 2 番人気に。レースでは同馬をマークする形で 4 番手を追走、直線に入り外から先頭を窺うと、内からすかさずロマンチックウォリアーが抜け出しを図って一騎打ちとなりますが、中距離の絶対王者の牙城を崩すには至らず、クビ差の 2 着でした。その後、初の海外遠征となったドバイターフ (G1、芝 1,800m) は内の 6 番手あたりでレースを進めましたが、直線では進路が開かず、さらにキャットニップ落馬の煽りもあって 13 着に終わりました。

帰国初戦の前走チャンピオンズマイルはマクドナルド騎手とのペアに戻って 3 番手につけますが、前半の 800m を 48 秒 03 のマイペースで逃げたビューティーエターナルとの差は、直線に入っても縮まらず、2 番手のレッドライオンとの追い比べでもこれをかわせず、勝馬からは 1 馬身 3/4 差、2 着とは 1/4 差の 3 着まで。ヴォイジバブルの背後につけたゴールデンシックスティは 4 着で、普段より水分を多めに含んだ馬場の影響もあってか上位は道中の位置取りの順の決着となりました。

通算成績は 18 戦 6 勝 (うち G1・1 勝)。重～不良馬場の経験はありませんが、稍重では 2 戦 1 勝、3 着 1 回。左回りはまともな競馬にならなかった今年 3 月のメイダンでの 1 戦のみですが、イウ調教師はその適性について「(右回り) 大きな違いはない」と見えています。マイルは 7 戦して 3 勝、2 着 1 回、3 着 2 回で、持ち時計は昨年 11 月のジョッキークラブマイル 3 着時の 1 分 33 秒 74。昨年のワールドベストレースホースランキングは、香港マイル 2 着時のレーティング 119 でダハンベルーガや、ヒシイグアス、プログノース、ソールオリエン、スターズオンアースらと並ぶ世界 53 位タイで、香港所属馬および芝の「M(1,301m～1,899m)」カテゴリーに限れば、ゴールデンシックスティ、カリフォルニアスプリング、ロマンチックウォリアーに次ぐ 4 番目の評価でした。今年 5 月 5 日までの同ランキングでは世界 15 位タイの 119 で、芝の「M」カテゴリーでは 5 位タイです。

● 馬主：サンシャインアンドムーンライト・シンジケート

(Sunshine And Moonlight・Syndicate / 漢字表記：日月輝煌賽馬團體)

サンシャイン・アンド・ムーンライト・シンジケートは、ホテルや航空機内のアメニティ用品・備品、ヘルスケア用品などのメーカーであるミン・ファイ・インターナショナル・ホールディングスの取締役を務めるツンワー・チン氏、同社のCFOであるクオックホン・キョン氏らで構成される競走馬共有組織です。シンジケートの名義ではこれまで3頭を所有し、現役馬は本馬のほかに3勝を挙げているヴォイッジサムライがいます。

● 調教師：フーンファイ・イウ (Poon Fai Yiu / 漢字表記：姚本輝)

1957年7月12日生まれの66歳。香港で1974/1975年シーズンから見習騎手として騎乗を開始し、1980/1981年に攻馬手に転向するまでに通算11勝。その後、調教助手を経て1995/1996年シーズンに調教師免許を取得しました。

これまでの主な管理馬に1999年の香港スプリントを制したフェアリーキングプローン(2000・01年の安田記念来日時はアラン調教師管理)や、2007・09年と香港スプリントを2勝し、2009年のクリスフライヤーインターナショナルスプリントを制するなど香港を代表するスプリンターとして、年度代表馬にも輝いたセイクリッドキングダム、2014年のアルクオーツスプリント優勝馬アンバースカイなどがいます。

2019/2020年シーズンに67勝で待望のリーディングタイトルを獲得し、翌シーズンは12位にランクを落としたものの、続く2021/2022年は53勝で5位、2022/2023年は57勝で4位と近年はトップトレーナーの一角を占めています。この2023/2024年シーズンは、5月22日終了時点で、本馬によるスチュワーズカップ優勝やニンブルニンバスのセンテナリーヴァーズ(G3)勝ちなど469戦48勝で3位、通算勝利数は1,000を超えています。

管理馬の日本初出走は、ウルトラファンタジーで挑んだ2010年のスプリンターズステークス。ホイウイン・ライ騎乗で10番人気ながら見事に優勝し、香港出身の調教師・騎手のコンビによる海外G1初制覇となりました。その後はブリザードで2017年スプリンターズステークス、18年高松宮記念(ともに5着)に挑んでおり、今回の安田記念は延べ4頭目の管理馬出走となります。

● 騎手：ザカリー・パートン (Zachary Purton)

1983年1月3日生まれ、オーストラリア出身の41歳。2000年にデビューし、2002/2003年シーズンには見習騎手でありながらクイーンズランド州のチャンピオンタイトルを獲得しました。2005/2006年シーズンから2季連続でシドニー地区のリーディング2位で、G1初勝利は2006年のサイアーズプロデュースステークス(エキサイト)。

2007/2008年シーズンから香港での騎乗を開始し、2013/2014年を皮切りに2017/2018～2019/2020年、2021/2022、2022/2023年とここまで計6回リーディングに輝いています。2022/2023年には179勝でシーズン最多勝記録を更新するとともに、シーズン獲得賞金(2億7,771万2,060香港ドル)も記録となりました。今年の4月10日にはダグラス・ホワイトに次ぐ史上2人目の香港通算1,700勝を達成。5月22日終了時点で香港スプリント(ラッキースワイネス)、香港ダービー(マッシヴソヴリン)、チャンピオンズマイル(ビューティーエターナル)を含む584戦103勝、3シーズン連続のリーディングに向けて2位に31勝差をつけています。

香港での主なタイトルに香港カップ(2017年タイムワープ)、香港マイル(12年アンビシャスドラゴン、16年ビューティーオンリー、18年ビューティージェネレーション、22年カリフォルニアスパンクル)、香港スプリント(14・16年エアロヴェロシティ)、香港ヴァーズ(13年ドミナント、18年エグザルタント)、クイーンエリザベスII世カップ(20年エグザルタント)、チャンピオンズマイル(18・19年ビューティージェネレーション)、チェアマンズスプリントプライズ(18年アイヴィクトリー、23年ラッキースワイネス)など。国外でもイギリスのキングズスタンドステークス(2012年リトルブリッジ)、オーストラリアのドンカスターマイル(14年セイクリッドフォールズ、17年イツツサムワット、23年ミスターブライトサイド)、サイアーズプロデュースステークス(16年ヤンキーローズ;リバティア일랜드の母)などを制しています。

2010年の安田記念で初来日し、フェローシップで9着、12年にリトルブリッジでスプリンターズステークス10着、

15年にエアロヴェロシティで高松宮記念優勝、ガンピットでチャンピオンズカップ16着、17年にビューティーオンリーで安田記念6着。ワールドスーパージョッキーズシリーズには2度出場し、2012年に総合優勝、14年は9位タイ。2014、15年の夏には短期免許を取得して日本で騎乗しているほか、日本馬とのコンビで14年のコーフィールドカップ(アドマイヤラクティ)、20年の香港カップ(ノームコア)を勝っています。